厚岸町議会 令和6年度各会計補正予算審査特別委員会会議録

令和6年9月11日
午後1時17分開会

- 委員長（杉田委員） ただいまから令和6年度各会計補正予算審査特別委員会を開会いたします。

早速、早速を進めてまいります。

初めに、議案第55号令和6年度厚岸町一般会計補正予算を議題といたします。

1 ページ、第1条は歳入歳出予算の補正です。

2 ページから4 ページは、第1表歳入歳出予算補正です。

5 ページ、6 ページは、歳入歳出補正予算事項別明細書です。

7 ページの歳入から進めてまいります。

進め方は、款項目により進めます。

11款1項1目地方特例交付金。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 15款使用料及び手数料、1項使用料、2目民生使用料。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 18款財産収入、2項財産売払収入、1目不動産売払収入。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 19款1項寄附金、1目一般寄附金。

10番、堀委員。

- 堀委員 ここで、提案理由説明の中では、日連丸・白雲戦没者慰霊遺族の会様からの寄附金ということで計上されているのですが、今年、たしか日連丸・白雲戦没者慰霊祭なりが開催されたかと思うのですが、この寄附に至った経緯というものが何かあれば、お知らせしてください。

- 委員長（杉田委員） 総務課長。

- 総務課長（布施課長） お答えさせていただきます。

今年、その慰霊祭が5年ぶりに開催されまして、今回、寄附を100万円いただいたのですが、これまでにこの慰霊祭が幾度と行われているのですが、その際に

厚岸町の人員としてお手伝いしたりとかありました。それで、ご高齢にもなっていて、今後この慰霊祭を開催するかどうかという部分もあって、今回は一区切りつけたいという意向もありまして、これから遺族の会がどうなるのかはちょっと分かりませんが、区切りをつけたいので町のほうに寄附をさせていただきたいという、これまでお世話になったということです。

●委員長（杉田委員） ほかに、1目一般寄附金、ございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。
3目民生費寄附金。

（な し）

●委員長（杉田委員） 5目農林水産業費寄附金。

（な し）

●委員長（杉田委員） 20款繰入金、1項基金繰入金、4目まちおこし基金繰入金。

（な し）

●委員長（杉田委員） 21款1項1目繰越金。

（な し）

●委員長（杉田委員） 22款諸収入、6項3目雑入。

（な し）

●委員長（杉田委員） 以上で、歳入を終わります。
次に11ページ、歳出に入ります。
1款1項1目議会費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 2款総務費、1項総務管理費、1目一般管理費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 3目職員厚生費。
10番、掘委員。

●掘委員 ここで職員厚生費で、接種を希望する職員、対象者見込み数70人に対する新型コロナワクチン予防接種委託料の計上ということで、大体、予算の70人で割り返すと1万5,300円という費用になろうかと思います。

先ほど、議案第73号では、一般の人方が、65歳以上の方々が受けようとしたときには2,100円の自己負担があるよ。こちらのほうでは全額公費負担のように計上されているのですけれども、それでまず間違いないのかなどなのか。あくまでも自己負担というものがあるべきではないのかなと私は思うのですけれども、その辺についてはどのような考えを持っているのでしょうか。

●委員長（杉田委員） 総務課長。

●総務課長（布施課長） お答えさせていただきます。

確かに、歳出のほうで見ると70人で、先ほどの1万5,300円。自己負担のほうなのですが、歳入のほうの8ページのほうで、雑入の中なのですが、職員等予防接種負担金というところで、今までもインフルエンザの予防接種をやっているのですけれども、そのときも自己負担をいただいていたしまして、そちらでも同じ、今回の額としましては1万5,300円の3割相当として4,590円ですね、1人、自己負担をもらうこととしております。

というのは、インフルエンザのほうも全体で3,000円何がしかかるのですけれども、1,100円の自己負担を職員からもらって、今インフルエンザの予防接種をやっているという状況であります。なので、今回は全額公費負担ではなくて、3割分は自己負担をもらうということになっております。

●委員長（杉田委員） 他に、3目職員厚生費、ございませんでしょうか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。
4目情報化推進費。
2番、室崎委員。

●室崎委員 もし、この項目で駄目だと言うのであれば、委員長からご指摘いただきたい。厚岸町のホームページについてお聞きしたいので、よろしくお願いします。

ホームページを見ておりましたら、ちょっと表現に疑義のあるところがあったので、改めて指摘して、お答えいただきたいのですが、特定健康診査・生活習慣病検査というページがあります。そこで、特定健診で言いますが、特定健康診査項目という表がありまして、そこで血液検査、血圧測定、尿検査、身体測定、診察、問診と、こういう書き

方をしているのですね。このうちの幾つかは、検査項目ではなくて、検査方法ではないかと思うのですよ。

ついでに申し上げますが、ほかの町の同じようなことを書いているところを見ますと、検査項目としては、血液検査として脂質、中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール、肝機能としてGOT、GPT、ガンマGTPというような書き方をしているのですよね。これは、血液を使って、こういうものを検査しますということで検査項目だと思うのです。血液検査と、ぼんと書いてあって、これ血液を採取するということは分かりますけれども、何を検査しているのか全然分からないのですよね。

なおかつ、生活習慣病健診は、要するに高齢者ののですか、のところでも同じことを書いているのです。全く同じものなのかどうかということについても、ちょっと分かりませんよね。これ表現としてはちょっと不適切でないかと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

質問者のお話いただいたとおり、方法と項目に誤認があったといいますか、検査をする項目と採血、血液の測定自体は方法ですので、そこを一緒になって表現しているということに間違いないと思いますので、直ちに訂正したいと思います。

●委員長（杉田委員） 他に、情報化推進費、ございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

10目企画費。

8番、石澤委員。

●石澤委員 ここで、北前船というフォーラムがあるのですが、これはどのような内容で、これからも続けるのですか。今回だけでしょうか。

●委員長（杉田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） お答えいたします。

こちらのほうの北前船フォーラム in 北海道・くしろということで、全国で持ち回りで進めておりますが、今回こちら釧路開催ということで、釧路のほうで今回のフォーラムを行いました。その負担金を各町村で出していただいて、町としても参加をしておりますが、そういった中での負担金が求められたということで、もう既に6月に開催はしておりますが、予算がなかったので流用で対応させていただいて、今回の9月補正に計上させていただいたというような経過でございます。

●委員長（杉田委員） 8番、石澤委員。

●石澤委員 というと、今回だけということで、これからまた順番に来るということではない。

●委員長（杉田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） このフォーラム自体の大会は、これからも全国どこどこで進めていくということは聞いておりますが、あくまでも、今回の場合は釧路市で開催したということで、管内の町村から負担をいただいたということでございます。

●委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

●南谷委員 2款1項10目、16ページでございます。地域おこし協力隊、ここでお尋ねをさせていただきます。

地域おこし協力隊66万4,000円の計上でございます。説明を読みますと、コンキリエ2名のアウトドアガイドの募集となっております。そこでお尋ねをさせていただきます。現状のガイドの人数、それから、今なぜ、この2名が計上となったのか、まず説明をしてください。

●委員長（杉田委員） 観光商工課長。

●観光商工課長（田崎課長） まず、今現在のコンキリエで勤めているアウトドアガイドの資格を有する者ですけれども、6月の定例会の段階で、味覚ターミナルの経営報告のほうをさせていただきました。その際は、2名のスタッフでアウトドア関係の事業を行っていたのですけれども、同月に1名が退職になりまして、現在のところ1人でこのアウトドアの事業を行っているというようなところであります。

どうして今このタイミングなのかということなのですけれども、アウトドアを行うに当たって、また、コンキリエ全体の職員が不足しているという状況がありますので、常に募集のほうを行ってきておりましたが、しかし一向に新たな採用ができる職員が見つからないという状況であり、このままですと来年度以降、コンキリエにおいてのアウトドアガイドを使った各種事業の展開が難しくなるという状況でありましたので、このタイミングで地域おこし協力隊としてアウトドアのガイドができるような協力隊員を今のうちから公募をかけて、そして何とか2名を採用できるようなという状況で、このたび予算計上したところであります。

●委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

●南谷委員 僕の質問の仕方が悪かったのかなと。

なぜかという部分については分かったのですよ。まず、ここで旅費が63万5,000円で、何で旅費が必要なのかなど。アウトドアの協力隊の旅費なのか、研修費の旅費なのか。計上している数字はそれしかないのです、はっきり言って。協力隊を求めるよ。その人数は、今1人だから協力隊を2名募集するのかなどなのか、協力隊が1名なのか。この辺についてもはっきり説明をしてください。

それと、今、コンキリエのアウトドアガイドの説明がありました。納得できるのですが、アウトドアガイドをコンキリエで雇い入れする、そういう人を募集している。そういう人は協力隊の絡みもあるのですけれども、コンキリエとして募集している全体像が見えないのですよ、アウトドアに対する。

僕が質問したかったのは、ここで計上になっている普通旅費で旅費が大きい数字です。アウトドアを募集するのに何で旅費が計上になったのかなど。それはどういうことなのだろうと。この全体像が見えない。ここでの計上は、アウトドアガイドを募集します。2人いたけれども1人辞めたから1人出します。協力隊とどう関係あるのか。

それから、アウトドアを協力隊で求めてやるのだけれども、コンキリエにとってどんな影響があるのか。この辺について、しっかり説明をしてください。

●委員長（杉田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） 地域おこし協力隊の担当課から、まずお答えさせていただきたいと思います。

まず、普通旅費の63万5,000円ということですが、この9月定例会の補正予算、可決になった後、インターネット、ホームページ、また、それぞれ募集サイトあるのですけれども、そちらのほうで募集させていただきます。

町としては、今求めている2名、こちらを町といたしまして募集をかけ、履歴書を出していただきます。町といたしましては、履歴書の書類選考ということをまず判断をさせていただきたいと思います。ただ、この旅費につきましては、全国から募集をすることで、この旅費につきましては今3名、これは町のほうからそちらに出向いて面談をさせていただくと。これは担当課。もちろん町長、そして担当課、私たち地域おこし協力隊を担当している課、こちらの3名でそれぞれ出向いてというような旅費なのですけれども、今の予定でいきますと、札幌と東京と関西ということで、この3名分の旅費をそれぞれ持っております。

ただ、この旅費も、本当に何名の方から応募が来て、そしてそちらのほうに出向くかどうかというのも、そこは検討させていただきたいと思います。今ですと、要はオンラインでやって、オンラインの面接で可否を判断できるか、もしくはその方がこちらに来て面談をするか。また人数が多くなりますと、こちらから出向くというような今までの地域おこし協力隊の面談をやっている経過もありますので、この旅費につきましては、募集をかける町サイドの3名がそれぞれに出向いて面談をするというような旅費を今回計上させてもらっております。

それと、こちらの下のほうでありますけれども、賃借料でいきますと会場借上料、それぞれ出向く場所のホテル、もしくはそういった会場を借り上げて、そこで面談を行う

ということで、その借上料。そして駐車場の使用料につきましては、飛行機等で出向くとなりますと、釧路空港での公用車の駐車場ということで、この駐車料金を今回のこの補正予算に計上したということの内容でございます。

●委員長（杉田委員） 観光商工課長。

●観光商工課長（田崎課長） コンキリエにおけるアウトドアガイドの人員の関係ですけれども、現状は1人です。今、総合政策課長から話あったとおり、これから地域おこし協力隊員として2名。ですから、満度に2名が採用できれば、トータルで3名の体制でアウトドアの事業展開ができるというような状況で考えております。

かつ、現状で言いますと、春先、6月に1名いなくなりましたが、それ以前の2人体制の段階でも、やはり、特に一番大きいのが、本州のほうから修学旅行で来るカヌーの体験ツアーだとか、こういうときには2人ではもう全然足りなくて、今、釧路町の例えば遠矢のほうでアウトドアガイドをやっている方々を、お金を払って事業を手伝ってもらおうというようなことをやらなければ対応が取れていなかったというのもありますので、これを機に、しっかりとした人数の体制を取って、可能であれば3名で事業を展開していきたいというようなところであります。

●委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

●南谷委員 大体分かりました。説明だけでは読めないのですよ、はっきり言ってね。

ガイドを募集する。これは、厚岸町として地域協力隊を求めるための経費だと、こういう理解をさせてもらいました。

突っ込んでちょっと伺うのですが、コンキリエのほうの所管になると思うので、地域協力隊に対する町の助成制度はありますよ。ただ、それだけで間に合うのかどうか。地域協力隊の身分保障というのですか、そういうものというのは、ある程度コンキリエの部分で補わなければならないものと、町で補点をしなければならない。この辺について、今の範囲で、分かる範囲で説明をしていただきたい。

それから、肝心の答弁、抜けています。アウトドアガイドを3人にするという予定。これによって、それは、1人より2人、2人より3人の多いほうがいいわけけれども、コンキリエにとってどんなメリットがあるのか。この辺について、何も説明がないのですよ。失敗を恐れてはまずいと思うけれども、もう少し、少なくとも人を3人雇って、こういう事業展開するわけですから、これについて触れてください。

●委員長（杉田委員） 総合政策課長。

●総合政策課長（三浦課長） まず、基金の関係でちょっとお答えさせていただきたいと思います。

地域おこし協力隊の報酬であります25万円ということで、そのほか、活動費の補助金を出しております。ただ、コンキリエでも、地域おこし協力隊がコンキリエに入って

一緒に活動していくとなりますと、コンキリエとしてもやはり時間外の部分あったりだとかがあります。それは本人との、あくまでも時間は、会計年度任用職員という扱いになりますので、時間は決まっておりますけれども、やはり活動内容によってはコンキリエの手助けもしなければならない。そちらの場合には、本人と話をして、やはり時間外手当てというのは本人に支払わなければならない。それはコンキリエのほうから支払うような形となっております。

●委員長（杉田委員） 観光商工課長。

●観光商工課長（田崎課長） コンキリエにおいて、アウトドアガイド3名になってというようなところですが、まず間違いなく、今まで以上に余裕を持った事業の展開ができるというのは、これは人数が増えることによってできることだと思います。

アウトドアの仕事に従事してもらうために、ここにアウトドアガイドというふうに書いていますけれども、まず、この資格を確実に取ってもらわなければならないと。こちらを取ってもらいまして、そして、いろいろな事業の中にさらに今以上の受け口を持って事業を行うことで、コンキリエの収益の増にもつながってくるというのが一つあります。

それと地域おこし協力隊、皆さんご存知のとおり、最長で3年というふうになろうかと思えます。コンキリエと私ども所管課のほうとしても、その後、コンキリエで例えば正職員という形になるのか、もしくは町内の中でアウトドアガイドというかアウトドアの事業者というような形で、別な会社が出来上がってくると、よりいろいろな事業展開もできるのではないのかなというような話もしながら、これからの3年間の中でしっかりとした事業の展開をしていきたいと考えております。

●委員長（杉田委員） 他に、10目企画費、ございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

3款民生費、1項社会福祉費、1目社会福祉総務費。

10番、掘委員。

●掘委員 ここでは、施設用備品購入15万1,000円でお聞きしたいのですが、説明欄の中には、施設用備品購入15万1,000円は、経年劣化により使用不能となったガス給湯器の代替えとして電気温水器1台の購入費の計上というふうになっているのですが、私の認識では、ガス給湯器自体は問題がなくて、屋根裏に張っているガス管のほうに問題があって、結果的には、そのガス供給のほうに問題があるから取り換えるのだよというような認識でいて、ガス給湯器自体はまだまだ比較的新しくて、まだまだ使える、使用に耐え得るものだなというふうに思っていたのですが、そこら辺はどうなっているのでしょうか。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） ここで、旧奔渡保育所、多機能共生型交流センターの地域の自治会で使われる和室の部分になります。そこの給湯が効かないということで、修繕するには、外から来ているガス管そのものの配管を直さないといけない。壁の中に入っているの、その工事等を行うのにかなり金額がかかるということで、代用策として安価のほうの給湯器ということに変更してつけたという状況となっております。

●委員長（杉田委員） 10番、堀委員。

●堀委員 間違いなのでしょう。経年劣化により使用不能となったガス給湯器ではないでしょう。違うよね。そこら辺どうなのでしょう。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） すいません。提案説明の中で、経年劣化となっておりますが、本体そのものの経年劣化ではなくて、供給されるガス管等の設備が古いもので、代替えが効かないということで機械を設置し直したという状況となっております。

●委員長（杉田委員） 1目社会福祉総務費、他にございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

2目心身障害者福祉費。

7番、南谷委員。

●南谷委員 3款1項2目22節、020ですか。心身障害者福祉一般962万円、ここでお尋ねをさせていただきます。

例年、返還金というのは発生しております。令和5年度の執行残を国に返還する分というふうに理解をしているのですが、962万円の内訳を説明してください。大きくいいですから。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） 説明させていただきます。

ここの962万円の内訳ですが、令和5年度の給付費の国庫、それから道費の残額の返還金ということで、一つは、国庫の負担金の返還では、児童通所の給付費300万円ほど、障害者医療費400万円ほど。それから、道費のほうになりますが、これは障害者の

給付の相談支援部分になります。これが95万円ほど。それから、道費負担金の児童の通所相談分ということで63万円。さらには、障害者医療費の道費の部分で83万円ほどの内訳となっております。

●委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

●南谷委員 20万円くらい足りないね。今の言った数字、足していったら。僕の計算違いかな。違いますか。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） ちょっと大雑把にお話をし過ぎました。

最初の国庫負担金のほうで、児童で301万8,000円ほど。障害者医療費のほうでは417万4,000円ほど。さらには、端数を加えると960万円ほどになるというふうに。

●委員長（杉田委員） 南谷委員。

●南谷委員 しっかり説明してください。1,000円以下はいいですけども、少なくとも万単位までぐらいは、きちんと説明してください。本会議で説明聞いているのだから。

この返還金を踏まえまして令和5年度の実績、例年と比べてどんな状況なのか、説明をしてください。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） 説明させていただきます。

令和5年度の給付状況に対しての返還金ということで、令和5年度の給付状況ということでもあります。

令和5年度の給付につきましては、3年度、4年度、5年度にかけては、給付費そのものは増加傾向にありまして、特に児童、それから障害者の生活援助部分について増額傾向にあるというふうなことで、令和5年度については、大体3月補正の中で、3月末までの支給を見込んで、できる限り精査しながらではありますが行っているつもりであります。ただ、給付費ですので、年度内で給付する予算を不足させるわけにはいかないというところで、ある程度人数の見込みを見て行っているというところで、返還金が金額としては多額になったというふうに感じているところでございます。

給付費自体は、歳出予算の中で執行見込みとして予算残額も出てくるのですが、これに対しては、国の補助金、道の負担金においても、やはり必要な見込み分を、気持ちといたしますか、多めに見込んでいくというようなことになります。歳出に合わせて歳入もきちんと申請しなければいけないということになりますので、国費においても、歳出と同様に申請をして、年内に収納されるものですから、翌年度に返還金が生じたという状況となっております。

●委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

●南谷委員 アバウトだなと。質問の仕方がアバウトかもしれないけれども。

返還金が発生するのは、僕もやむを得ないと思います。財源が足りなくしたら大変だから。ただ、令和4年とか3年と比べて、令和5年の実績というのは、同じだったのですか、どうですかということをもとに聞きたい。

同じくらいの実績、これ返還金ですから。実質、令和5年度のこれらに係っている数字というのは3年、4、5年と変わり、5年度はどうだったのですか。この数字が、基本になる数字が同じだったか。

ということは、いろいろ何本もあるわけがございますから、例えば高齢で亡くなっている人も多いとか、人口減だとか、こういう影響があったり、いろいろしてますよ。この辺についても、トータルでは同じような状況なのかどうなのか。この辺の実態について、もう少し詳しく説明してください。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） 返還金ではなくて、事業そのもののサービス料につきましては、先ほどちょっと話したとおり、令和3年、4年、5年度にかけて増加傾向にあります。その分を予算規模もだんだんと大きく、それに合わせて国費、道費の申請額も増えているというような実態となっています。

今回、特に大きかったなというのは、実は国庫の更生医療費というのが中にございます。これは、サービスでいうと透析患者の方の医療費、自己負担部分を負担する部分に給付をするのですが、生活保護の方につきましては、医療保険に入っておりませんので、費用にかかる全額を更生医療費で賄うこととなります。

昨年度、途中でこの生活保護の方が亡くなったことがあって、金額としては多大に執行残になった。さらには、返還金が生じたというところとなっております。サービス料につきましては、増加傾向にあるという状況となっております。

●委員長（杉田委員） 他に、2目心身障害者福祉費、ございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

4目老人福祉費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 8目社会福祉施設費。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 2項児童福祉費、1目児童福祉総務費。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 4目児童福祉施設費。
7番、南谷委員。

- 南谷委員 3款2項4目児童福祉施設費です。ここでお尋ねをさせていただきます。

あつけし保育所、8万1,000円の計上、ここでお尋ねをさせていただきます。財源内訳でございますが、その他が5万円の計上となっております。寄附があったという説明があるのですが、財源を活用してどんな事業をしたいと思っているのか。この事業の内容、それから寄附を含めて、説明のできる範囲で事業内容を説明してください。

- 委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

- 保健福祉課長（早川課長） ご説明させていただきます。

あつけし保育所におきましては、その他5万円。それから、しんりゅう保育所につきましては116万3,000円に含まれている、この中に5万円。あつけし保育所の5万円、これにつきましては、一般の方からの寄附10万円がありまして、これに対してあつけし保育所、それから、しんりゅう保育所において、せっかくいただいた寄附ですので、子どもの遊具、または図書教材費というようなものに充てて購入したという経過であります。

あつけし保育所につきましては、これを活用しまして、カラートンネルという遊具5万2,300円ほどの執行をしているという状況でございます。

- 委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

- 南谷委員 しんりゅう保育所についても、既に説明をしていただきましたので。

それで、図書教材購入費5万6,000円になっているのですけれども、図書というのは、単純にこのとおり読むと、本を購入したのかなと思うのですけれども、これはどんなものを購入され、例えば本であればどういう本を、ものをというふうに思って、この内容について説明をしていただきたい。

それから、今説明がありました。寄附と言われました。毎年もし、その寄附を同じ人がしてくれるのであれば、厚岸町としての対応はどうなっているのか、この辺についても。せっかく厚岸町に、もし同じ人がしてくれるのであれば、やはり厚岸町としても誠意を尽くさなければならぬのかなとは思っているのですけれども、規約もあるだろうけれども、規則があるわけだから、何でもかんでもというわけにいかないけれども、もし同じ人であれば、町としても何らかの手だてをすべきと考えますが、いかがでしょうか。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

一つは、しんりゅう保育所につきましては、図書教材購入費 5 万 6,000 円。この内訳で、購入したものがドラム 1 個、それからブロック一式 5 万 5,836 円となっております。

保育所におきましては、通常は施設備品と、それから遊具等におきましては図書教材費ということで、備品費の中の施設備品ではなく、図書教材等の購入ということで執行上の整理をさせていただいております。

この保育所における計 10 万円の寄附につきましては、実は、これまで毎年寄附者の希望としましては、しんりゅう保育所へ 10 万円の寄附をしたいので、子どもたちに対して使っていただきたいということを添えていただいております。例年、しんりゅう保育所だけ、こういった趣旨で教材費、遊具を充実させるということもなかなかバランスがというところも逆に話をさせていただいて、数年ほど前から、昨年度は、友遊児童館、子夢希児童館と子育て支援センターに 3 万円ずつの遊具等、それから今年については、保育所 2 か所で分けるというようなことで、本人の趣旨に沿った内容で執行させていただいているということになっております。

この寄附に対しては、一般的な令状の送付という程度のことしか実はしておりません。ただ、寄附者については、東京厚岸会に所属されている方ということで、当然、町長、それから担当としては総合政策課のほうで対応したときにお礼を述べさせていただいて、先ほどの使用の変更ですとか、そういったこともご相談させていただいて受けているという状況となっております。

●委員長（杉田委員） 7 番、南谷委員。

●南谷委員 これまでも、東京厚岸会の皆さんには大変お世話になっているのだけれども、都度というわけにはいかないでしょうけれども、何かありましたらやはり、ただ、ありがとうと言っているだけでは済まないと思います。人間として、厚岸町としても。何かのそういう折があれば、ぜひ町としての誠意を示すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

これまで、1 年、2 年ではなくて、ずっと継続していただいているということもありますので、改めてちょっと、私ども直接お話できればということもありますが、何か方法等、考えていきたいというふうに思います。

●委員長（杉田委員） 他に、4 目児童福祉施設費、ございませんでしょうか。

(な し)

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

4 款衛生費、1 項保健衛生費、2 目健康推進費。
2 番、室崎委員。

●室崎委員 ここでお聞きしますけれども、コロナがいまだに町内でも出ているという話を聞くのですが、近年というか、この頃の発生数、分かりましたら教えてください。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

今年に入ってからの町内の発生状況であります。当初、今年度に入りましてからは、大体週に数人ほど、1 日に 2 人、それから 1 人というようなこと。それから、発生しない日もあるというような状況がずっと続いております。

ただ、これは、町立厚岸病院において、陽性になった数を毎日確認させていただいている状況では、週に 3 人から 4 人程度が夏場頃まで続いていたという状況ですが、その中でも発生しない日もかなり増えてきたというような状況で、落ち着いてきているという状況ではあります。ただし、やはりぽつんと発生している状況も見られております。

●委員長（杉田委員） 2 番、室崎委員。

●室崎委員 年代的には、町立病院でつかまえているところではどういような。そんなきちんとした数字でなくてもいいのですが、若い人が多いとか、お年寄りが多いとか、そういうようなことではどうなのでしょう。

●委員長（杉田委員） 病院事務長。

●病院事務長（星川事務長） 私のほうから、正確な人数の年齢別とか、そういうのはしっかり押さえていませんので、その辺は。今、私の手元にないのでお答えできませんけれども、今、保健福祉課長が言った中で、毎月、大体 100 件から 300 件ほどが毎月検査をしていて、そのうちの大体 2 割から 3 割程度がコロナに感染しているということが確認されております。

その中で、最近多いのは、高齢者の方が多いときが固まったりですとか、それ以外には、高校生の年代の方が固まって出たりとかということが特徴的に出ていますけれども、すべからく全体的に、やっぱり年代もそれぞれの項目で出ているのかなというふうには押されておりますけれども、ただ、そういった状況にあって、年齢的に固まって出てくるというのが最近的にちょっと多いかなというイメージで思っています。

●委員長（杉田委員） 2番、室崎委員。

●室崎委員 確かに感染症ですからね、近い人が移るわけでしょうから、そういうような現象が出るのでしょうか。

それで、コロナは終わったような印象が世の中には随分ありますよね。一頃は、誰も彼もがマスクをかけていたけれども、今この議場で見ても、こうやってマスクをかけている人はいませんよね。5類になったからマスクは要らないのだという話と、コロナが移る移らないという話は全く別の問題なのだけでも、そうですね。

そういう中で、今コロナワクチンの予防接種のこの話がこの予算が出ておりますが、このワクチンのシステムですね、それは、町民全員に何月何日に予約して打ちなさいというのをやってましたよね、コロナの特別扱いのときは。それと、今は変わったわけですが、どのような形になっているのですか。やっぱり勧奨というのは一人一人に行っているのですか。その辺り含めて教えてください。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

コロナの予防接種につきましては、条例のときに説明させていただいたとおり、予防接種法の位置づけが変わったというところで、方法についても切り替わったというふうな状況となっております。

これは、今年3月までの間については、特別臨時接種という扱いの中で、感染の蔓延を抑えるために接種の勧奨を行って、できる限り接種していただくというようなことで全額公費で行う。

なお、接種の部分につきましては、基本的には、小さい子どもの部分は幾つか違いはありましたが、全町民に対して勧奨を行って接種するというような形を取っておりました。状況によっては、高齢者の方につきましては、1回目、2回目接種した中では、改めて接種をする日にちを指定してお知らせをすとか、そういったことも行って、個別の勧奨を行って接種するという形になっておりました。

これが4月以降、B類の定期予防接種になったという部分では、インフルエンザと同様の形となりますが、個別勧奨を行う積極的な予防接種の位置づけではなくなったという認識をしております。また、特に個々の重症化を予防するという目的で、重症化に耐えられづらい高齢者の方を国は特定して予防接種の対象にしたという形となっております。このため、インフルエンザと同様に、一般的な周知を行いながら接種希望者の方に接種するという形にはなりますが、町が行う予防接種としては、副反応の周知ですとか予防接種に対する基本的な説明等については、説明責任がある中で定期予防接種を行うという形と認識しております。

●委員長（杉田委員） 2番、室崎委員。

●室崎委員 見ていますとね、世の中全体がコロナに対する警戒が非常に緩んでいます。

例えば手を洗うとか日々消毒をするとか、そういうものについての意識もどんどん薄れていきますね。マスクもしなくなってくる。でも、若い人たちはかかったとしても、大した重症の風邪ではない程度で終わっていくわけ、大抵の人は。ところが、その人が保菌者として持って歩く部分については、かえって危ないのですよ。うちで寝ていてくれたほうがいいのですよね。だけれども、さしたる症状もないから普通に歩く。そうすると、結局、菌だかウイルスだか、それをばらまいているわけです。

そういう中でもって、私みたいな高齢者がかかったら大変なことになるわけです。しかし、その重症化を防ぐコロナワクチンにしても、広報あつけしやホームページに「何歳以上の人は重症化する恐れがあるから受けましょう」と書いてますよね。だけれども、その何歳以上の人の何割がホームページを見ているのかといたら、これは言うまでもないですよ。そうすると、何かコロナを生き延びさせるようにように全体が動いているような気がしてしょうがないのですね。

一つ重症化になって、それこそ9度5分も熱を出して、余病がまた表に出てくるようになれば、昨日からの話ではないけれども、医療費の負担は町にかかってくるわけですよ。そうすると、やはりコロナに対しては警戒を怠ってはいけませんよという意識ですね、これを醸成するということは非常に大事だと思うのです。

そういう意味で、何か手を打たなければならないのではないかと。今の発生数から見ても、毎日1人か2人は発症してると考えたほうがいいのではないかとというような数字ですね。町立病院が押さえているだけでこれだけなのです。町立にかかっていない人だって結構いるわけですよ。そういうことを考えますとね、どうも手ぬるいのではないかという気がするのですがいかがですか。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

お話のとおり、これまでのコロナの危険性から考えると、国の方針、それから国でいうと予算、公費の負担の在り方ですとか、そういったいろいろな意見の中で定期予防接種化になって、インフルエンザと同様の通常の定期予防接種に移行したという状況だというふうには理解しております。

ただ、今言われたとおり、個々に考えた場合、地域的に拡大になるおそれもある。そういう危険性は何も変わっていない中で、これがそのままインフルエンザと同様なものでいいのかというところでは、僕たちも改めてこれまでどおりの、例えば全額公費で予算を組むだとかいうところまでは行きつきませんが、何かしら手だてがないのかなというところもちょっと検討はしたところではあります。ただ現状、制度の中で行う実施、それから、これに加えて蔓延する時期に対する通常の感染予防対策、これは欠かせないというところで進めたいというふうに考えているところではあります。

それともう一つ、特に今回、僕たちもちょっと疑念を持っていたのは、やはり介護従事者等、それから高齢者に接する部分で、何か手だてがないのかなという検討もさせていただきましたが、今回につきましては、若い層の接種率が、昨年度、第7回までの中では個々の副反応の強さから接種しない方もかなり増えてきているという状況もある中

で、強制ではありませんが、なかなか接種につながらないのかなというところも懸念はあるというようなことで、事業化、予算化というところには至っておりませんが、そういったことは、いろいろ考えを検討してきたという状況とはなっております。

●委員長（杉田委員） 2番、室崎委員。

●室崎委員 今、課長の答弁の中から懸念という言葉が出てきたのですが、懸念だらけなのですよ、考えていきますと。

例えば、特別扱いの半年か1年前までのようなことはできないのはよく分かるし、国は、要するに、もう財政負担が大変なので、ちょっと手を引いたということでしょう、はっきり言えば。そういう中で、厚岸町だけが突っ走るわけにはいかないのだろうと思います。それは分かります。

ただ、例えば、後期高齢者のところには、個別に勸奨の手紙の1本も出すとか、そういうようなことはできるでしょう。改めて、コロナというものが終わって、もう何ともないのだというような誤解をしてはいけませんよという機運を作っていく必要はあるのではないですか。その点いかがでしょう。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

ただいまお話のあったとおり、もちろん今回は、特にワクチンの単価が高かったということもありまして、経費の問題というのは、当町においても独自の事業は組めなかったという部分のことでもあるのかなというふうにも思っております。

ただ、ただいまお話いただいたとおり、事業の執行に当たっては、いろいろな工夫の中で勸奨をしていく。それから、特に今、後期高齢者の方とかですが、やはり昨年まで第5回、6回、7回、行うにつれて、やはりそこも、高齢者の方も副反応があって、これ打つくらい、あれくらい苦しいのであれば、打ちたくないというような、そういった傾向も増えてきたなというふうにも感じております。

そういった部分と、それから、個々にはそのことと、やはり感染対策を行って予防しなければいけない、人にはうつせないというようなリスクのどちらを取るかというようなこともあると思いますが、そういった意味でも、改めて再勸奨をするですとか、そういった検討はできるのかなというふうに思います。

●委員長（杉田委員） 2番、室崎委員。

●室崎委員 これでやめますけれども、今ちょっとお話も出ていたようだけれども、確かにワクチンの副作用で苦しんでいる人もいるわけですよ。ですから、ワクチンさえ打っておけばという問題でもなさそうですね。その辺り、私、専門家でないから、あんまり見た話、聞いた話だけでは、話はできませんけども。

それで、今おっしゃったように、コロナは終わったわけではありませんと。それで、

コロナのうんとはやり出したときに人混みには出ないようにとか、特に高齢者のような人や疾病を持っている人はね。あるいはマスクは人がたくさんいるところではしましよとか、あるいは手を洗いましょうとか、いろいろありましたよね、その感染対策というのですか。そういうものについて、もう一度きちんとやはり想起するように、町は働きかけていく必要があると思うのです。それと、ワクチンの勧奨と。これは特に高齢者だとか疾病のある人に対してですけども。

そういうような働きかけは、やはりうまずたゆまず、やらなければならないのではないかと。5類に移行しましたから、もういいですよ。あとは、特に神経質な人だけアルコール消毒しててくださいという話ではないわけですから、その点よろしくお願ひしたい。

●委員長（杉田委員） 保健福祉課長。

●保健福祉課長（早川課長） お答えさせていただきます。

コロナの対策についても、通常の予防対策ということで、昨年までいろいろな予防策の経過がある中で、現在、今後行っていかなければいけない予防策は何なのかということも必要なことかなというふうにも思いました。特に、コロナの感染予防と言いながら、現実的には、インフルエンザはほぼ蔓延しなかったというのも、これはワクチンではなくて、予防対策がインフルエンザをほとんど発生させないといった効果につながったものというふうにも理解しますので、これは時期も重なるので、特に予防対策についての周知等については、本当に進めたいなというふうに感じました。

また、ワクチン接種のほうも、限られた中ではありますが、副反応等の状況も見ながら、懸念もありますが、接種率もなるべく高まるような周知等も行いたいというふうに思います。

●委員長（杉田委員） 4款1項2目健康推進費、他にございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

4目水道費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 2項環境政策費、1目環境対策費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 5款農林水産業費、1項農業費、1目農業委員会費。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 8目農業水道費。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 3項水産業費、3目漁港管理費。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 5目養殖事業費。
10番、掘委員。

- 掘委員 ここで、水産増養殖調査研究100万円の増ということで、いきいきふるさと推進事業助成の補助採択を受け、カキの高品質化に向けた調査研究事業の実施に伴う分析委託料の関係経費の計上というふうにあります。カキの高品質化というふうにうたわれております。現状の厚岸のカキ、どのような高品質化を目指した中で調査研究というものを進めていく考えなのか、お聞かせください。

- 委員長（杉田委員） 水産農政課長。

- 水産農政課長（高橋課長） 厚岸のカキにつきましては、今、全国的に三陸しかり、瀬戸内海、広島地方しかり、カキの稚貝が順調に採苗できないというような問題を抱えているというお話を漁組のほうからよく聞きます。これは、ひとえに近年の海洋環境の変化によって海水温が上昇してきているといった部分で、採苗も少なく、着床したカキが育たないというような中で、まだ厚岸町においては、宮城から入ってくる種苗もそれほど数量が少ないであるとか、そういった部分の問題はあまり伺っておりませんが、ゆくゆくは、このままこういった気候変動が進んでくると、本当に国内でカキ自体の生息状況がなかなか難しくなってくるという懸念があると。

そういった中で、今厚岸町で進めているシングルシードや弁天ガキといったカキを未来永劫、厚岸町の水産資源として振興させていくための方策として、様々な養殖の手法であるとか、かごを一つとっても、国内、国外の様々な養殖手法がございますし、それにかかる部材・部品の選択等もございます。そういった中の国内の先進地といいますか、そういったところをまず視察しながら、そういう技術を厚岸町のカキの種苗生産に生かしていくと。そういった意味での種苗水産増養殖調査研究事業ということで、かねてから、もう数年来行ってきております。

やはり去年が一番記憶に新しいところではございますけれども、夏場のカキの生育不良ということで、秋に向けての町内のイベントも開催が先延ばしされたと。今までにはなかったことなのだろうというふうに認識しておりますが、厚岸町の地場に合ったカキ、高品質なカキと言っていいのかどうか分かりませんが、地元の環境に適した

より強いカキを育てていくためのそういった調査研究ということで、この助成金を活用した調査研究事業を進めているというような考え方で行わせていただいているところでございます。

●委員長（杉田委員） 10番、掘委員。

●掘委員 大体分かったのですけれども。

近年の海洋環境、水温の上昇というのは、何もカキだけに影響を与えているわけではないというものは言えると思うのですよね。今年の昆布の生育不良にしてもそうでしょうし、赤潮で被害を受けたウニとかにしても、やはり何らかの水温上昇の影響というものは、すべからず海の中の生物には影響というものはある。アサリにしてもしかりだとは思っているのですけれども。

やはりカキだけではなくて、もっとほかの産品、厚岸を代表する水産物のそういったものにもしっかりと目を向けた中で調査研究の裾野を広げていくというのは大事ではないのかなというふうに思うのですけれども、今現在、そういうような取組というのは、漁業協同組合なども含めた中で、やっぴいこうというものはないのでしょうか。

●委員長（杉田委員） 水産農政課長。

●水産農政課長（高橋課長） カキセンターでございますので、基本的にはカキの種苗生産から育成、生産指導という形の中で業務を行わせていただいております。

そういった中で、その他の魚種という部分で、今まさに昆布であるとか、昆布は、本当に北海道全域において生息状況がよろしくないということで、厚岸町は、棹前もかろじて出ておりますけれども、今後、昆布も生息域がどんどんどんどん狭まってくるというような懸念もございます。また、サケやマスにおいても、近年どんどん漁獲数が減ってきていると。

いろいろな複合要因は、環境的な要因であるとか、人的要因とかあるとは思っているのですけれども、そういった部分、カキセンターでどうしてもできない部分については、厚岸町には、北海道の出先機関として水産技術普及指導所もございますし、そういった部分の知見も十分活用させていただきながら、町と北海道、さらには漁組の指導部門といった中で、その他の魚種、アサリであるとかウニであるとか昆布であるとか、そういった部分の調査研究については、並行して進めていけるものというふうに考えております。

●委員長（杉田委員） 10番、掘委員。

●掘委員 カキセンターだからカキだけだということではなくて、当然カキセンターの業務の中には水質監視、湖内や湾内の水質の監視というものもあるわけでしょうから、そういった中では、そのセンターが主体となって、カキだけでなく、ほかのところにももっと目を向けることというのは可能だというふうに思うのですよ。

海洋環境の変化というものは怖くて、やはり一度狂い出したサイクルというものはない

かなか元に戻すことができないといった中では、今、漁業者も皆さん、心の底では将来的な不安というのは、このままでいけるのかどうなのかという不安というのはやはり持っているというふうに思うのですよね。

そういうものを捉まえた中で、ぜひとも、厚岸の他の産品、水産物に対しても、しっかりとした将来展望というものが描けるような、そういうものを町が主体となって漁組に働きかけた中でやっていっていただきたいなというふうに思うのですけれども、いかがでしょうか。

●委員長（杉田委員） 水産農政課長。

●水産農政課長（高橋課長） カキセンターの業務という中では、水質に関する調査は継続して行っております。湖内と湾内に限られるところではありますけれども、水温であるとか塩分濃度であるとか、そういった部分の継続的な調査は日々行っておりますし、何らかの異常があった場合につきましては、速やかに漁協を通じて漁業者へ迅速な情報提供というものがなされておりますので、そういった部分では貢献できているのではないかなというふうに考えております。

繰り返しになりますけれども、その他の魚種につきましても、漁業協同組合と協力しながら、今後の厚岸町の水産業が持続的に発展していけるような方策を今後も引き続き研究しながら取り進めてまいりたいというふうに考えております。

●委員長（杉田委員） 他に、3項5目養殖事業費、ございませんか。
8番、石澤委員。

●石澤委員 教えてください。

ここに、生物種同定分析委託料とあるのですよ。これ、どのようなことをする場所なのでしょうか。何を委託しているのですか。

●委員長（杉田委員） 水産農政課長。

●水産農政課長（高橋課長） 水産増養殖調査研究の委託料の生物種同定分析委託料の17万4,000円のお尋ねかと思っておりますけれども、これにつきましては、カキセンターにおいて経常的に調査をしている海水等の分析調査の中で、海水中に含まれるプランクトン、これらの種類の分類をすることであるとか、カキ養殖に使用する浮玉、ロープ、それから養殖かごに付着する生物の種類を分類する業務といった部分の中で、こうした生物分析について専門業者のほうにそういった分析を委託していただいております。

こうした分析を行うことで、カキを養殖する海域における海域の特徴を把握することができるであるとか、そういったメリットがあると。そういう中で、今回この経費について北海道の市町村振興協会の補助を受けて、この事業を進めるという中の一業務ということで計上させていただいているところでございます。

●委員長（杉田委員） 8番、石澤委員。

●石澤委員 ということは、これ、今までやっていなかったわけではないのですね。これからずっと続けていくということなのですか、この事業。

●委員長（杉田委員） 水産農政課長。

●水産農政課長（高橋課長） この業務につきましては、従前からもやっておりますし、今後もやっていくという内容の業務として上げさせていただいているところでございます。

●委員長（杉田委員） 他に、5款3項5目養殖事業費、ございませんでしょうか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。
6款1項商工費、3目食文化振興費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 5目観光施設費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 7款土木費、2項道路橋梁費、1目道路橋梁維持費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 3項河川費、1目河川総務費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 5項公園費、1目公園管理費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 6項住宅費、2目住宅管理費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 8款1項消防費、2目災害対策費。
7番、南谷委員。

●南谷委員 8款1項2目消防費、ここでお尋ねをさせていただきます。

ここで、初めて見るのですけれども、290、津波避難場所整備事業。説明資料ですと賃借料だったかな、こっちのほうの説明では。避難場所の災害対策費、津波避難場所、N T T厚岸ビルの防災設備に保管する場所の7か月分の賃借料の計上。賃借料が発生しているのですよ。初めて聞く言葉なのですよ。

今まで、私は予算のときの補正のところでもそうなのですけれども、借りるよという話は聞いているけれども、賃借料の話は初めてでございます、この説明で。今まで、その辺については、今回あそこに借りるよというときにそういう話というのはなかったのですが、その辺の経過について説明をしてください。

●委員長（杉田委員） 危機対策室長。

●危機対策室長（四戸岸室長） ご質問の賃借料でございますが、12万4,000円。お話のありましたとおり、N T T厚岸ビルにおける賃借料でございます、避難者が避難するスペースにつきましては無償でお借りいただけるということで、従前よりお話をさせていただいております。

ただ、その避難者のために備蓄しておく備蓄品、毛布ですとか、そういったものを置かせていただく部屋につきましては、月ごとの賃借料をお支払いしなければならないということで、その1室分の部屋の賃借料、これを10月からの7か月間分を12万4,000円ということで計上させていただいております。

これまで、議員協議会等でご説明をさせていただいた折には、そういった詳細の賃借料が生ずるですとか、そういったことまではもしかしたらお話させていただいていなかったかもしれませんが、だとすれば、ちょっと説明不足ということもあったかなと思いますので、であれば、申し訳なく思っているところです。

●委員長（杉田委員） 7番、南谷委員。

●南谷委員 物を借りるわけだから、でも結果として、こういう結果に至っていると、非常に残念に思います。しっかりこういうことを進める上では、相手のあることなので、商取引、常に万全の注意を払ってやっぱり臨んでいただきたいなと思います。

7か月でということは、今後1年間、毎年これが発生すると、こういう認識に至っているのですが、いかがでしょうか。

●委員長（杉田委員） 危機対策室長。

●危機対策室長（四戸岸室長） 委員おっしゃいますとおり、月額で1万7,600円、これがその施設を借り受けている期間は、今後、継続的に生じると、支払う必要があるとい

うものになっております。

●委員長（杉田委員） 10番、堀委員。

●堀委員 私は、その下の津波避難場所整備事業で、防災用備品購入といった中で、今回、真龍中学校を一時避難の施設として指定した中で、避難時に必要となる防災備蓄品のトイレなどの消耗品と備品購入というふうに計上されております。

その後段の部分で、休日・夜間等に避難者が校舎内に入る手段を確保するための地震自動解除キーボックス1個の防災用備品購入ということで計上になっているのですが、奔渡のコアぼんが津波避難場所というふうになっております。あそこは一時避難ではなくて津波避難場所というふうになっていて、現状は、施設の屋上が避難場所というふうになっております。

もし津波避難指示など警報なりが出た場合は、現状だと、夜間とかは施錠されている場合は、ガラスを何らかの方法で破って入らなければ避難できないような状況というふうになっております。このような自動地震解除キーボックスというものの中で、対処が可能であれば、ぜひとも、そちらのほうにも設置していただいた中で、万全の避難場所の整備というものを図ってほしいなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

●委員長（杉田委員） 危機対策室長。

●危機対策室長（四戸岸室長） 委員ご指摘のとおり、コアぼんときらくの屋上につきましては、屋上避難となっております。現在は、施錠時は中に入る手段がないということとであります。

今回は、一時避難施設についての予算計上とさせていただいておりますが、その他のそういった現在の緊急避難場所につきましても同様の手法で、キーボックスを設置して入れるようにですとか、そういったものも今ちょっと、町の施設の避難施設全体の精査といいますか、そういうのもしておりますので、そういった中でそういった屋内避難できるような形を確保するという手段について、恐らくこういった地震解除キーボックスの設置という手法が一番いいのかなというふうには現時点では考えておりますが、設置に向けて検討を進めてまいりたいと考えております。

●委員長（杉田委員） 他に、8款1項2目災害対策費、ございませんか。

（な し）

●委員長（杉田委員） 進めてまいります。

9款教育費、1項教育総務費、6目スクールバス管理費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 3項中学校費、2目学校管理費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 5項社会教育費、2目生涯学習推進費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 3目公民館運営費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 6目情報館運営費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 6項保健体育費、2目社会体育費。

（な し）

●委員長（杉田委員） 3目温水プール運営費。

10番、掘委員。

●掘委員 温水プールなのですけれども、今現在は、通年化に向けた検討というものをされているといった話をちらちらと聞きます。その結果というものは分からない中なのですけれども、要望というか、施設利用をして、ちょっと思うところがあって、水着の脱水器をやはり男性用更衣室、女性用更衣室それぞれにも1台ぐらいずつはないと、子どもたちが使ったとき、子どもたちは握力がないので、水着十分絞れないのですよね。といった中では、だらだらな水着を、要は、持って帰ってこなければならぬといった中では、多分20センチ真角くらいで、ちょっと入れて30秒くらい回すと脱水するというようなものが他の温水プール施設などでもあると思うのですけれども、通年利用を検討していく上では、より小さい子どもたちも使うといった中では、やはりそういう施設の整備というものも検討していただきたいなというふうには思うのですけれども、いかがでしょうか。

●委員長（杉田委員） 生涯学習課長。

●生涯学習課長（車塚課長） ただいまのご意見を受けまして、私のほうも利用者のそういう目線での部分、大変重要な視点だと思いますので、具体的に脱水の器具というので

すかね、そういうものもどういふものがあるのかとか、また、利用者のそういう、あるとありがたいというか、そういうものの目線でもちょっと、通年開館をするに当たって、そういう目線でもちょっと検討のほうをしていきたいと思ひますので、ご理解いただければと思ひます。

- 委員長（杉田委員） 他に、3目温水プール運営費、ございませぬか。

（な し）

- 委員長（杉田委員） 進めてまいります。

4目学校給食費。

8番、石澤委員。

- 石澤委員 今回、修繕のことで上がっていますけれども、今お米代が高くなったと。いろいろ原材料が高くなっているのですが、その辺は給食センターで足りているのでしょうか。予算は大丈夫なのですか。

- 委員長（杉田委員） 管理課長。

- 管理課長（諸井課長） お答えさせていただきます。

確認したところですが、9月分までは確保をしているというところでありませぬ。

報道等で既にご存じかもしれませぬけれども、新米、これが出回っているというところでもございませぬ。それで、新米についても9月下旬頃から国内というのでしょうか、足りてくるのではないかということも言われています。ただ、お米の金額、これについては相当高くなってきているというところでありませぬ。これもちょっと報道の話で申し訳ないのですが、価格についても出回ったら落ち着きそうだという状況ではありませぬけれども、これについては、物価高騰などもありまして、どのぐらいまで高くなるのか分かりませぬ。正直今のところは分かりませぬ。もし予算が不足になりそうなきときには補正予算で対応ということも考えておりますので、ご理解いただけたらと思ひます。

- 委員長（杉田委員） 他に、4目学校給食費、ございませぬか。

（な し）

- 委員長（杉田委員） 進めてまいります。

12款1項1目給与費。

（な し）

- 委員長（杉田委員） 以上で、歳出を終わります。
総体的にございませんか。

（な し）

- 委員長（杉田委員） なければ、以上で質疑を終わります。
お諮りいたします。
本案は、討論を省略し、原案のとおり可決すべきものと決するにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

- 委員長（杉田委員） 異議なしと認めます。
よって、本案は、原案のとおり可決すべきものと決しました。
- 委員長（杉田委員） 次に、議案第56号令和6年度厚岸町国民健康保険特別会計補正予算を議題といたします。
なお、議案第56号からは、款項で審査いたします。
1 ページ、第1条は歳入歳出予算の補正です。
2 ページ、3 ページは第1表、歳入歳出予算補正です。
4 ページ、5 ページは歳入歳出補正予算事項別明細書です。
6 ページ、歳入から進めてまいります。
7 款1項繰越金。ございませんか。

（な し）

- 委員長（杉田委員） 以上で、歳入を終わります。
次に、8 ページ、歳出に入ります。
7 款1項基金積立金。

（な し）

- 委員長（杉田委員） 9 款諸支出金、1 項償還金及び還付金。ございませんか。

（な し）

- 委員長（杉田委員） 以上で、歳出を終わります。
総体的にございませんか。

(な し)

- 委員長（杉田委員） なければ、以上で質疑を終わります。

お諮りいたします。

本案は、討論を省略し、原案のとおり可決すべきものと決するにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

- 委員長（杉田委員） 異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり可決すべきものと決しました。

- 委員長（杉田委員） 次に、議案第57号令和6年度厚岸町簡易水道事業特別会計補正予算を議題といたします。

1 ページ、第1条は歳入歳出予算の補正です。

2 ページ、3 ページは第1表、歳入歳出予算補正です。

4 ページ、5 ページは歳入歳出補正予算事項別明細書です。

6 ページ、歳入から進めてまいります。

4 款道支出金、1 項道補助金。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 5 款繰入金、1 項一般会計繰入金。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 以上で、歳入を終わります。

次に、8 ページ、歳出に入ります。

2 款水道費、1 項水道事業費。ございませんか。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 総体的にごございませんか。

(な し)

- 委員長（杉田委員） なければ、以上で、質疑を終わります。

お諮りいたします。

本案は、討論を省略し、原案のとおり可決すべきものと決するにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

- 委員長（杉田委員） 異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり可決すべきものと決しました。

- 委員長（杉田委員） 次に、議案第58号令和6年度厚岸町介護保険特別会計補正予算を議題といたします。

1 ページ、第1条は歳入歳出予算の補正です。

2 ページ、3 ページは第1表、歳入歳出予算補正です。

4 ページ、5 ページは歳入歳出補正予算事項別明細書です。

6 ページ、歳入から進めてまいります。

8 款繰入金、1 項一般会計繰入金。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 2 項基金繰入金。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 9 款1 項繰越金。ございませんか。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 以上で、歳入を終わります。

次に、8 ページ、歳出に入ります。

4 款地域支援事業費、2 項包括的支援事業・任意事業費。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 7 款諸支出金、1 項償還金及び還付金。ございませんか。

(な し)

- 委員長（杉田委員） 以上で、歳出を終わります。

総体的にごございませんか。

(な し)

- 委員長（杉田委員） なければ、以上で、質疑を終わります。

お諮りいたします。

本案は、討論を省略し、原案のとおり可決すべきものと決するにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

●委員長(杉田委員) 異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり可決すべきものと決しました。

●委員長(杉田委員) 次に、議案第59号令和6年度厚岸町後期高齢者医療特別会計補正予算を議題といたします。

1 ページ、第1条は歳入歳出予算の補正です。

2 ページ、3 ページは第1表、歳入歳出予算補正です。

4 ページ、5 ページは歳入歳出補正予算事項別明細書です。

6 ページ、歳入から進めてまいります。

4款1項繰越金。ございませんか。

(な し)

●委員長(杉田委員) 以上で、歳入を終わります。

次に8ページ、歳出に入ります。

2款1項後期高齢者医療広域連合納付金。ございませんか。

(な し)

●委員長(杉田委員) 以上で、歳出を終わります。

総体的にごございませんか。

(な し)

●委員長(杉田委員) なければ、以上で質疑を終わります。

お諮りいたします。

本案は、討論を省略し、原案のとおり可決すべきものと決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

●委員長(杉田委員) 異議なしと認めます。

よって、本案は、原案のとおり可決すべきものと決しました。

●委員長(杉田委員) 以上で、令和6年度各会計補正予算審査特別委員会に付託された

補正予算 5 件の審査は、終了いたしました。

よって、令和 6 年度各会計補正予算審査特別委員会を閉会いたします。

午後 2 時 47 分閉会

以上のように会議の次第を記載し、ここに署名する。

令和6年9月11日

令和6年度各会計補正予算審査特別委員会

委員長